

# ダイワ短期国際機関債ファンド (毎月分配型)－成長の絆－ (年2回決算型)－成長の絆(年2回)－

## 運用報告書 (全体版)

毎月分配型  
第109期 (決算日 2024年2月21日)  
第110期 (決算日 2024年3月21日)  
第111期 (決算日 2024年4月22日)  
第112期 (決算日 2024年5月21日)  
第113期 (決算日 2024年6月21日)  
第114期 (決算日 2024年7月22日)  
年2回決算型 第18期 (決算日 2024年7月22日)  
(作成対象期間 2024年1月23日～2024年7月22日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	毎月分配型	2015年1月22日～2025年1月21日
	年2回決算型	2015年10月15日～2025年1月21日
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ短期国際機関債マザーファンドの受益証券
	ダイワ短期国際機関債マザーファンド	新興国通貨建ての国際機関債
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	毎月分配型	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。また、第1および第2計算期末には、収益の分配は行ないません。
	年2回決算型	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、経費控除後の配当等収益等を中心に分配することをめざします。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、国際機関が発行する新興国通貨建債券に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先（コールセンター）  
TEL 0120-106212  
(営業日の9:00～17:00)

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<5649>  
<2702>

（毎月分配型）－成長の絆－

最近30期の運用実績

決算期	基準価額			JPMorgan GBI-EM ブロード ダイバーシファイド (円換算)		公社債率 組入比率	債券先物率 比	純総資産額
	(分配落)	税込 分配 金 円	期中 騰落率 %	(参考指数)	期中 騰落率 %			
85 期末(2022年 2月21日)	5,788	30	2.2	11,022	2.2	94.9	—	百万円 861
86 期末(2022年 3月22日)	5,747	30	△0.2	10,601	△3.8	95.4	—	837
87 期末(2022年 4月21日)	6,148	30	7.5	11,208	5.7	94.2	—	884
88 期末(2022年 5月23日)	5,941	30	△2.9	10,784	△3.8	94.5	—	847
89 期末(2022年 6月21日)	6,132	30	3.7	11,142	3.3	96.5	—	839
90 期末(2022年 7月21日)	6,031	30	△1.2	11,105	△0.3	96.0	—	816
91 期末(2022年 8月22日)	6,041	20	0.5	11,328	2.0	96.0	—	804
92 期末(2022年 9月21日)	6,259	20	3.9	11,706	3.3	95.6	—	806
93 期末(2022年10月21日)	6,362	20	2.0	11,687	△0.2	93.1	—	806
94 期末(2022年11月21日)	6,164	20	△2.8	11,473	△1.8	94.8	—	764
95 期末(2022年12月21日)	5,874	20	△4.4	11,097	△3.3	93.3	—	725
96 期末(2023年 1月23日)	5,913	20	1.0	11,351	2.3	93.5	—	720
97 期末(2023年 2月21日)	6,028	20	2.3	11,566	1.9	93.8	—	733
98 期末(2023年 3月22日)	5,940	20	△1.1	11,471	△0.8	94.6	—	708
99 期末(2023年 4月21日)	6,209	20	4.9	11,980	4.4	95.5	—	734
100 期末(2023年 5月22日)	6,273	20	1.4	12,263	2.4	95.5	—	732
101 期末(2023年 6月21日)	6,678	20	6.8	12,902	5.2	95.4	—	772
102 期末(2023年 7月21日)	6,712	20	0.8	13,039	1.1	95.5	—	765
103 期末(2023年 8月21日)	6,762	20	1.0	13,129	0.7	94.3	—	752
104 期末(2023年 9月21日)	6,854	20	1.7	13,354	1.7	94.9	—	753
105 期末(2023年10月23日)	6,862	20	0.4	13,053	△2.3	94.7	—	746
106 期末(2023年11月21日)	7,085	20	3.5	13,665	4.7	70.4	—	760
107 期末(2023年12月21日)	6,897	20	△2.4	13,487	△1.3	94.5	—	721
108 期末(2024年 1月22日)	7,028	20	2.2	13,830	2.5	93.7	—	732
109 期末(2024年 2月21日)	7,132	20	1.8	14,022	1.4	95.4	—	704
110 期末(2024年 3月21日)	7,221	20	1.5	14,107	0.6	95.5	—	703
111 期末(2024年 4月22日)	7,247	20	0.6	14,113	0.0	94.2	—	658
112 期末(2024年 5月21日)	7,555	20	4.5	14,768	4.6	94.8	—	673
113 期末(2024年 6月21日)	7,485	20	△0.7	14,642	△0.9	93.9	—	665
114 期末(2024年 7月22日)	7,486	20	0.3	14,763	0.8	94.8	—	651

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) JPMorgan GBI-EMブロード ダイバーシファイド (円換算) は、JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド (米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド (米ドルベース) は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

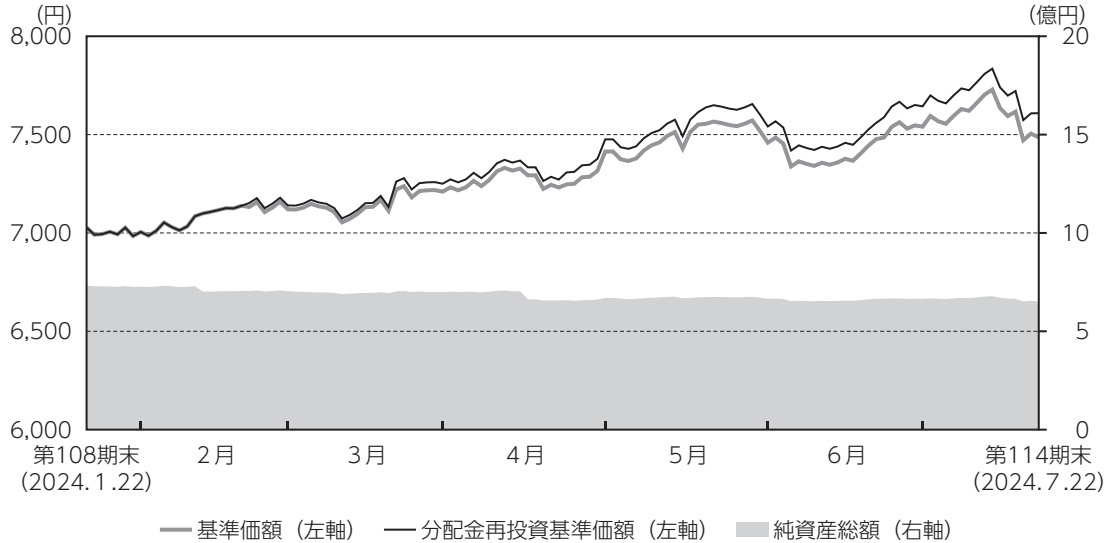
(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券 (転換社債券) を除きます。

(注7) 債券先物比率は買建比率・売建比率です。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

第109期首：7,028円  
 第114期末：7,486円（既払分配金120円）  
 騰落率：8.3%（分配金再投資ベース）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、多くの投資対象通貨が対円で上昇（円安）したことや債券からの利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ短期国際機関債ファンド（毎月分配型）－成長の絆－

	年 月 日	基 準 価 額		JPMorgan GBI-EM ブロード・ダイバーシファイド (円 換 算)		公 社 債 率 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
			騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
第109期	(期首) 2024年1月22日	円 7,028	% －	13,830	% －	% 93.7	% －
	1月末	7,005	△0.3	13,751	△0.6	94.0	－
	(期末) 2024年2月21日	7,152	1.8	14,022	1.4	95.4	－
第110期	(期首) 2024年2月21日	7,132	－	14,022	－	95.4	－
	2月末	7,120	△0.2	14,042	0.1	95.3	－
	(期末) 2024年3月21日	7,241	1.5	14,107	0.6	95.5	－
第111期	(期首) 2024年3月21日	7,221	－	14,107	－	95.5	－
	3月末	7,210	△0.2	14,146	0.3	95.2	－
	(期末) 2024年4月22日	7,267	0.6	14,113	0.0	94.2	－
第112期	(期首) 2024年4月22日	7,247	－	14,113	－	94.2	－
	4月末	7,414	2.3	14,413	2.1	94.6	－
	(期末) 2024年5月21日	7,575	4.5	14,768	4.6	94.8	－
第113期	(期首) 2024年5月21日	7,555	－	14,768	－	94.8	－
	5月末	7,459	△1.3	14,595	△1.2	94.6	－
	(期末) 2024年6月21日	7,505	△0.7	14,642	△0.9	93.9	－
第114期	(期首) 2024年6月21日	7,485	－	14,642	－	93.9	－
	6月末	7,540	0.7	14,793	1.0	94.7	－
	(期末) 2024年7月22日	7,506	0.3	14,763	0.8	94.8	－

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2024.1.23～2024.7.22)

### ■債券市況・為替相場

新興国債券市場では、米国の早期利下げ期待の後退を受けた米国金利の上昇（債券価格は下落）が金利上昇圧力となりましたが、国ごとの個別要因などから、金利は国によってまちまちな動きとなりました。新興国為替相場は、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、多くの新興国通貨が対円で上昇しました。

#### ・アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

#### ・欧州地域

ポーランド・ズロチは、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

#### ・中東・アフリカ地域

南アフリカ・ランドは、南アフリカにおいて総選挙後に連立政権樹立への期待が高まったことや、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

#### ・中南米地域

ブラジル・レアルは、ブラジルの財政悪化懸念が高まったことなどをを受けて、対円で下落（円高）しました。メキシコ・ペソは、メキシコの総選挙の結果を受けて一時的に円高ペソ安となる局面もありましたが、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## ポートフォリオについて

(2024.1.23~2024.7.22)

### ■当ファンド

当作成期を通じて「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

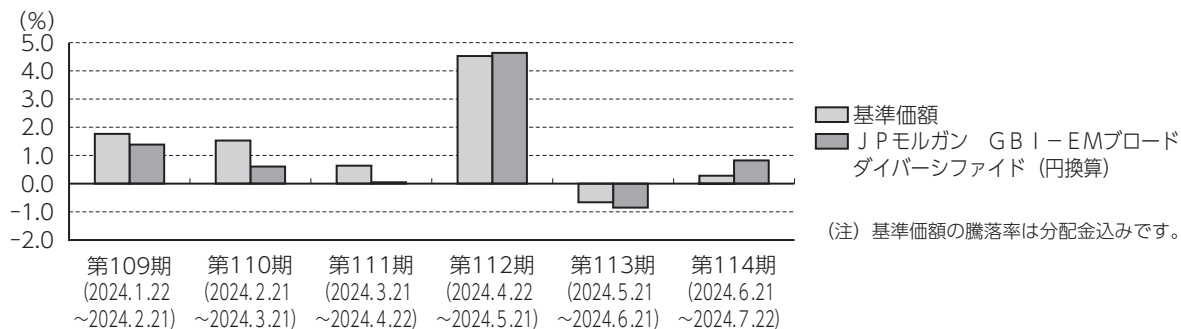
組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域へおおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
	2024年1月23日 ～2024年2月21日	2024年2月22日 ～2024年3月21日	2024年3月22日 ～2024年4月22日	2024年4月23日 ～2024年5月21日	2024年5月22日 ～2024年6月21日	2024年6月22日 ～2024年7月22日
当期分配金（税込み）（円）	20	20	20	20	20	20
対基準価額比率（％）	0.28	0.28	0.28	0.26	0.27	0.27
当期の収益（円）	20	20	20	20	20	20
当期の収益以外（円）	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額（円）	226	239	251	266	274	282

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計上で、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 32.38円	✓ 32.70円	✓ 31.78円	✓ 34.84円	✓ 28.34円	✓ 28.07円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	39.26	39.39	39.54	39.66	39.80	39.93
(d) 分配準備積立金	175.23	187.48	200.05	211.72	226.44	234.66
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	246.88	259.59	271.38	286.23	294.59	302.66
(f) 分配金	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	226.88	239.59	251.38	266.23	274.59	282.66

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第109期～第114期 (2024.1.23～2024.7.22)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	53円	0.727%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は7,313円です。
（投 信 会 社）	(24)	(0.326)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(28)	(0.380)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(2)	(0.021)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.018	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(1)	(0.015)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	55	0.746	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

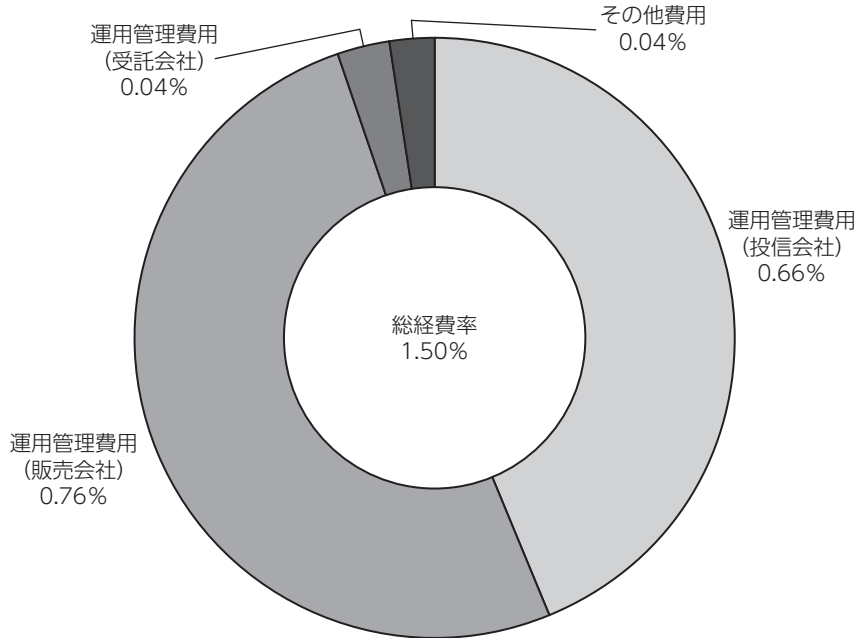
(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。



参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.50%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2024年1月23日から2024年7月22日まで)

決算期	第109期～第114期			
	設定		解約	
	□数	金額	□数	金額
	千□	千円	千□	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	820	1,184	99,867	142,010

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種類	第108期末	第114期末	
	□数	□数	評価額
	千□	千□	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	533,971	434,924	648,037

(注) 単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2024年2月21日)、(2024年3月21日)、(2024年4月22日)、(2024年5月21日)、(2024年6月21日)、(2024年7月22日)現在

項目	第109期末	第110期末	第111期末	第112期末	第113期末	第114期末
<b>(A) 資産</b>	<b>707,511,245円</b>	<b>706,717,641円</b>	<b>660,926,091円</b>	<b>675,976,551円</b>	<b>668,485,605円</b>	<b>656,102,266円</b>
コール・ローン等	6,154,289	6,000,530	5,841,447	5,783,391	5,718,278	5,737,409
ダイワ短期国際機関債マザーファンド(評価額)	701,356,956	699,911,396	655,084,644	670,193,160	662,767,327	648,037,916
未収入金	-	805,715	-	-	-	2,326,941
<b>(B) 負債</b>	<b>2,852,753</b>	<b>3,507,630</b>	<b>2,725,692</b>	<b>2,581,983</b>	<b>2,632,647</b>	<b>4,853,714</b>
未払収益分配金	1,976,127	1,947,752	1,816,599	1,782,728	1,779,137	1,739,899
未払解約金	-	733,696	-	-	-	2,251,500
未払信託報酬	871,760	816,760	894,678	780,487	830,110	834,259
その他未払費用	4,866	9,422	14,415	18,768	23,400	28,056
<b>(C) 純資産総額(A-B)</b>	<b>704,658,492</b>	<b>703,210,011</b>	<b>658,200,399</b>	<b>673,394,568</b>	<b>665,852,958</b>	<b>651,248,552</b>
元本	988,063,639	973,876,065	908,299,683	891,364,240	889,568,649	869,949,677
次期繰越損益金	△283,405,147	△270,666,054	△250,099,284	△217,969,672	△223,715,691	△218,701,125
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>988,063,639□</b>	<b>973,876,065□</b>	<b>908,299,683□</b>	<b>891,364,240□</b>	<b>889,568,649□</b>	<b>869,949,677□</b>
1万口当り基準価額(C/D)	7,132円	7,221円	7,247円	7,555円	7,485円	7,486円

\*当作成期首における元本額は1,042,211,775円、当作成期間(第109期～第114期)中における追加設定元本額は3,478,082円、同解約元本額は175,740,180円です。

\*第114期末の計算口数当りの純資産額は7,486円です。

\*第114期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は218,701,125円です。

■投資信託財産の構成

2024年7月22日現在

項目	第114期末	
	評価額	比率
	千円	%
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	648,037	98.8
コール・ローン等、その他	8,064	1.2
投資信託財産総額	656,102	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、7月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=157.54円、1メキシコ・ペソ=8.75円、1インド・ルピー=1.89円、100インドネシア・ルピア=0.98円、1ブラジル・リアル=28.13円、1南アフリカ・ランド=8.64円、1ポーランド・ズロチ=40.027円です。

(注3) ダイワ短期国際機関債マザーファンドにおいて、第114期末における外貨建純資産(659,826千円)の投資信託財産総額(662,680千円)に対する比率は、99.6%です。

■損益の状況

第109期 自2024年1月23日 至2024年2月21日 第112期 自2024年4月23日 至2024年5月21日  
 第110期 自2024年2月22日 至2024年3月21日 第113期 自2024年5月22日 至2024年6月21日  
 第111期 自2024年3月22日 至2024年4月22日 第114期 自2024年6月22日 至2024年7月22日

項 目	第 109 期	第 110 期	第 111 期	第 112 期	第 113 期	第 114 期
(A) 配当等収益	△ 6円	△ 8円	236円	212円	231円	249円
受取利息	—	—	236	212	231	249
支払利息	△ 6	△ 8	—	—	—	—
(B) 有価証券売買損益	13,116,134	11,438,774	5,057,135	30,032,833	△ 3,570,899	2,658,770
売買益	13,373,608	11,449,381	5,666,400	30,254,416	33,101	2,765,568
売買損	△ 257,474	△ 10,607	△ 609,265	△ 221,583	△ 3,604,000	△ 106,798
(C) 信託報酬等	△ 876,626	△ 821,316	△ 899,671	△ 784,840	△ 834,742	△ 838,915
(D) 当期損益金(A+B+C)	12,239,502	10,617,450	4,157,700	29,248,205	△ 4,405,410	1,820,104
(E) 前期繰越損益金	△246,507,163	△232,696,624	△208,797,143	△202,492,776	△174,578,778	△176,679,233
(F) 追加信託差損益金	△ 47,161,359	△ 46,639,128	△ 43,643,242	△ 42,942,373	△ 42,952,366	△ 42,102,097
(配当等相当額)	( 3,879,829)	( 3,836,917)	( 3,591,870)	( 3,536,032)	( 3,540,611)	( 3,474,253)
(売買損益相当額)	(△ 51,041,188)	(△ 50,476,045)	(△ 47,235,112)	(△ 46,478,405)	(△ 46,492,977)	(△ 45,576,350)
(G) 合計(D+E+F)	△281,429,020	△268,718,302	△248,282,685	△216,186,944	△221,936,554	△216,961,226
(H) 収益分配金	△ 1,976,127	△ 1,947,752	△ 1,816,599	△ 1,782,728	△ 1,779,137	△ 1,739,899
次期繰越損益金(G+H)	△283,405,147	△270,666,054	△250,099,284	△217,969,672	△223,715,691	△218,701,125
追加信託差損益金	△ 47,161,359	△ 46,639,128	△ 43,643,242	△ 42,942,373	△ 42,952,366	△ 42,102,097
(配当等相当額)	( 3,879,829)	( 3,836,917)	( 3,591,870)	( 3,536,032)	( 3,540,611)	( 3,474,253)
(売買損益相当額)	(△ 51,041,188)	(△ 50,476,045)	(△ 47,235,112)	(△ 46,478,405)	(△ 46,492,977)	(△ 45,576,350)
分配準備積立金	18,537,467	19,496,782	19,241,839	20,195,304	20,886,271	21,116,505
繰越損益金	△254,781,255	△243,523,708	△225,697,881	△195,222,603	△201,649,596	△197,715,533

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第 109 期	第 110 期	第 111 期	第 112 期	第 113 期	第 114 期
(a) 経費控除後の配当等収益	3,199,739円	3,185,404円	2,887,085円	3,105,571円	2,521,857円	2,442,029円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	3,879,829	3,836,917	3,591,870	3,536,032	3,540,611	3,474,253
(d) 分配準備積立金	17,313,855	18,259,130	18,171,353	18,872,461	20,143,551	20,414,375
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	24,393,423	25,281,451	24,650,308	25,514,064	26,206,019	26,330,657
(f) 分配金	1,976,127	1,947,752	1,816,599	1,782,728	1,779,137	1,739,899
(g) 翌期繰越分配対象額(e-f)	22,417,296	23,333,699	22,833,709	23,731,336	24,426,882	24,590,758
(h) 受益権総口数	988,063,639□	973,876,065□	908,299,683□	891,364,240□	889,568,649□	869,949,677□

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
	第 109 期	第 110 期	第 111 期	第 112 期	第 113 期	第 114 期
1万口当り分配金（税込み）	20円	20円	20円	20円	20円	20円

●＜分配金再投資コース＞をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

（年2回決算型）－成長の絆（年2回）－

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			JPMorgan GBI-EM ブロードダイバーシファイド (円換算)		公社債 組入比率	債券先物 比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
14期末(2022年7月21日)	円 9,636	円 50	% 9.2	12,195	% 3.0	% 95.8	% -	百万円 16
15期末(2023年1月23日)	9,598	50	0.1	12,466	2.2	93.3	-	18
16期末(2023年7月21日)	10,900	200	15.6	14,319	14.9	95.2	-	20
17期末(2024年1月22日)	11,378	230	6.5	15,188	6.1	93.4	-	10
18期末(2024年7月22日)	12,031	290	8.3	16,212	6.7	94.6	-	12

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) JPMorgan GBI-EMブロードダイバーシファイド(円換算)は、JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケットズブロードダイバーシファイド(米ドルベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケットズブロードダイバーシファイド(米ドルベース)は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

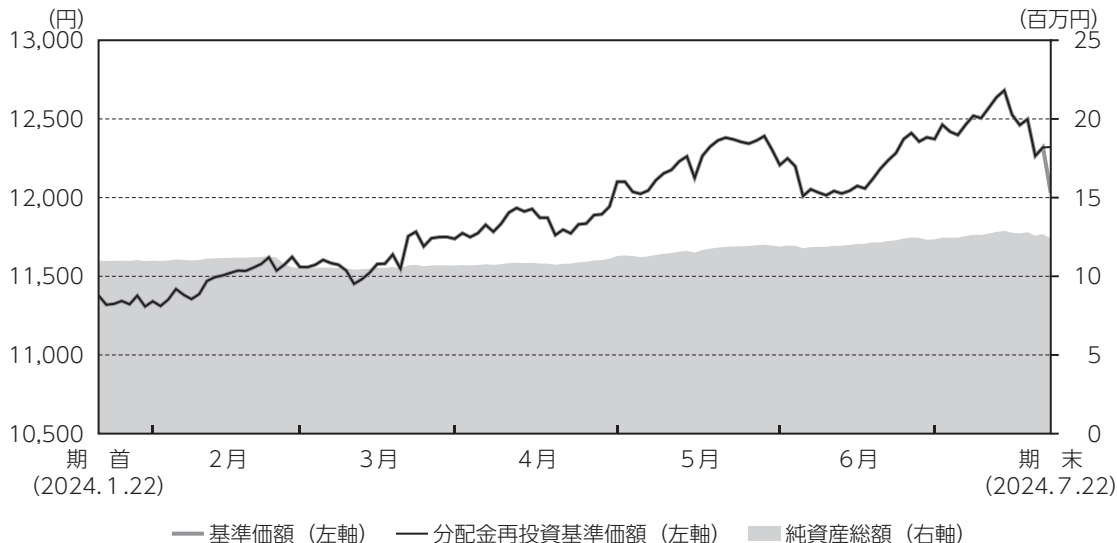
(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

(注7) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：11,378円

期末：12,031円（分配金290円）

騰落率：8.3%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、多くの投資対象通貨が対円で上昇（円安）したことや債券からの利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		J Pモルガン G B I - E M ブロード ダイバーシファイド (円 換 算)		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2024年1月22日	円 11,378	% -	15,188	% -	% 93.4	% -
1月末	11,341	△0.3	15,101	△0.6	93.4	-
2月末	11,559	1.6	15,421	1.5	95.0	-
3月末	11,738	3.2	15,535	2.3	95.0	-
4月末	12,101	6.4	15,829	4.2	94.3	-
5月末	12,207	7.3	16,028	5.5	94.3	-
6月末	12,372	8.7	16,245	7.0	94.4	-
(期末) 2024年7月22日	12,321	8.3	16,212	6.7	94.6	-

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2024.1.23~2024.7.22)

### ■債券市況・為替相場

新興国債券市場では、米国の早期利下げ期待の後退を受けた米国金利の上昇（債券価格は下落）が金利上昇圧力となりましたが、国ごとの個別要因などから、金利は国によってまちまちな動きとなりました。新興国為替相場は、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、多くの新興国通貨が対円で上昇しました。

#### ・アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

#### ・欧州地域

ポーランド・ズロチは、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

#### ・中東・アフリカ地域

南アフリカ・ランドは、南アフリカにおいて総選挙後に連立政権樹立への期待が高まったことや、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

#### ・中南米地域

ブラジル・レアルは、ブラジルの財政悪化懸念が高まったことなどをを受けて、対円で下落（円高）しました。メキシコ・ペソは、メキシコの総選挙の結果を受けて一時的に円高ペソ安となる局面もありましたが、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。



## ポートフォリオについて

(2024.1.23～2024.7.22)

## ■当ファンド

当作成期を通じて「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

## ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

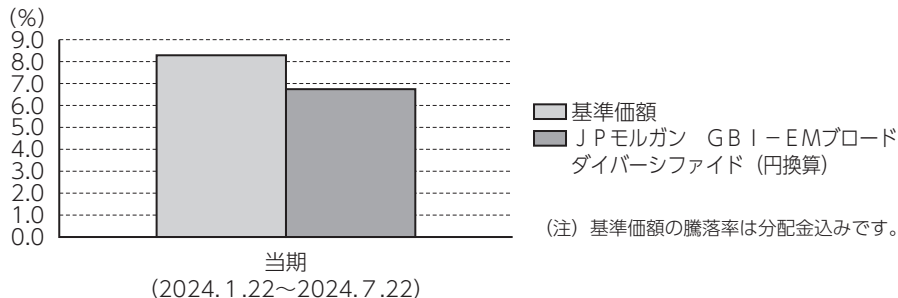
組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域へおおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2024年1月23日 ～2024年7月22日	
<b>当期分配金（税込み）</b> (円)		<b>290</b>
対基準価額比率 (%)		2.35
当期の収益 (円)		290
当期の収益以外 (円)		－
翌期繰越分配対象額 (円)		3,364

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当	期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓	304.40円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益		371.66
(c) 収益調整金		1,357.13
(d) 分配準備積立金		1,621.44
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)		3,654.64
(f) 分配金		290.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)		3,364.64

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2024.1.23~2024.7.22)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	88円	0.737%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11,921円です。
（投 信 会 社）	(39)	(0.331)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(46)	(0.385)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(3)	(0.021)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0.019	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(2)	(0.015)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	90	0.756	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

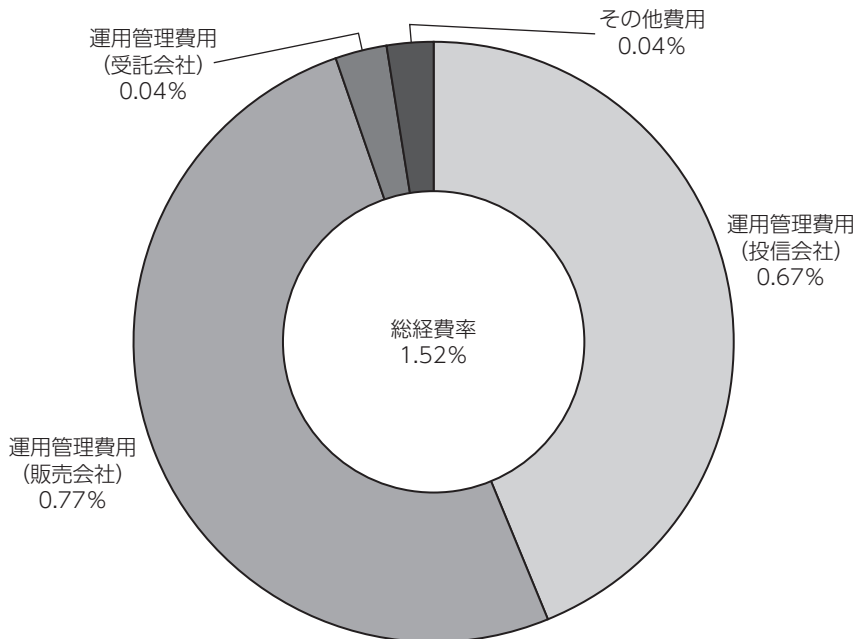
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.52%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2024年1月23日から2024年7月22日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千□	千円	千□	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	1,115	1,645	843	1,209

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表  
親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千□	千□	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	7,988	8,260	12,308

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2024年7月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	12,308	96.2
コール・ローン等、その他	479	3.8
投資信託財産総額	12,788	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、7月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=157.54円、1メキシコ・ペソ=8.75円、1インド・ルピー=1.89円、100インドネシア・ルピア=0.98円、1ブラジル・レアル=28.13円、1南アフリカ・ランド=8.64円、1ポーランド・ズロチ=40.027円です。

(注3) ダイワ短期国際機関債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(659,826千円)の投資信託財産総額(662,680千円)に対する比率は、99.6%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年7月22日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	12,788,272円
コール・ローン等	479,581
ダイワ短期国際機関債マザーファンド(評価額)	12,308,691
(B) 負債	382,847
未払収益分配金	299,036
未払信託報酬	83,447
その他未払費用	364
(C) 純資産総額(A - B)	12,405,425
元本	10,311,613
次期繰越損益金	2,093,812
(D) 受益権総口数	10,311,613□
1万□当り基準価額(C / D)	12,031円

\* 期首における元本額は9,659,482円、当作成期間中における追加設定元本額は1,564,854円、同解約元本額は912,723円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は12,031円です。

■損益の状況

当期 自2024年1月23日 至2024年7月22日

項 目	当 期
(A) 有価証券売買損益	931,434円
売買益	966,268
売買損	△ 34,834
(B) 信託報酬等	△ 83,811
(C) 当期損益金(A + B)	847,623
(D) 前期繰越損益金	1,521,480
(E) 追加信託差損益金	23,745
(配当等相当額)	( 1,399,422)
(売買損益相当額)	(△1,375,677)
(F) 合計(C + D + E)	2,392,848
(G) 収益分配金	△ 299,036
次期繰越損益金(F + G)	2,093,812
追加信託差損益金	23,745
(配当等相当額)	( 1,399,422)
(売買損益相当額)	(△1,375,677)
分配準備積立金	2,070,067

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程(総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	313,889円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	383,247
(c) 収益調整金	1,399,422
(d) 分配準備積立金	1,671,967
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	3,768,525
(f) 分配金	299,036
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	3,469,489
(h) 受益権総口数	10,311,613口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	290円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

# ダイワ短期国際機関債マザーファンド

## 運用報告書 第19期 (決算日 2024年7月22日)

(作成対象期間 2024年1月23日～2024年7月22日)

ダイワ短期国際機関債マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

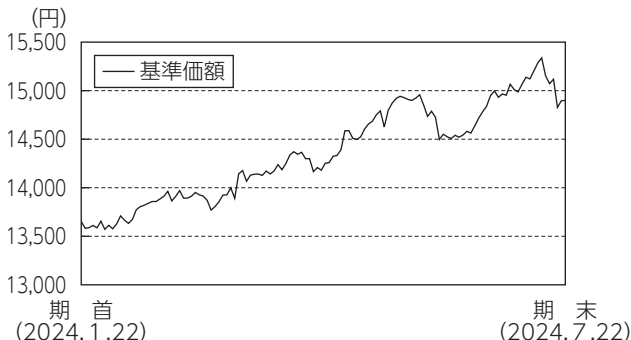
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	新興国通貨建ての国際機関債
株式組入制限	信託財産の純資産総額の10%以下

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移



年月日	基準価額		J.P.モルガン GBI-EM ブロード ダイバーシファイド (円換算)		公社債 組入比率	債券先物 比率
	円	騰落率 (%)	(参考指数)	騰落率 (%)		
(期首)2024年1月22日	13,653	—	13,830	—	94.1	—
1月末	13,613	△0.3	13,751	△0.6	94.4	—
2月末	13,893	1.8	14,042	1.5	95.8	—
3月末	14,127	3.5	14,146	2.3	95.7	—
4月末	14,587	6.8	14,413	4.2	95.1	—
5月末	14,735	7.9	14,595	5.5	95.0	—
6月末	14,953	9.5	14,793	7.0	95.1	—
(期末)2024年7月22日	14,900	9.1	14,763	6.7	95.3	—

- (注1) 騰落率は期首比。
- (注2) J.P.モルガン GBI-EMブロード ダイバーシファイド (円換算)は、J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド (米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド (米ドルベース) は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.
- (注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
- (注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
- (注5) 公社債組入比率は新株予約権付社債券 (転換社債券) を除きます。
- (注6) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

《運用経過》

◆ 基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：13,653円 期末：14,900円 騰落率：9.1%

【基準価額の主な変動要因】

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、多くの投資対象通貨が対円で上昇 (円安) したことや債券からの利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆ 投資環境について

○ 債券市況・為替相場

新興国債券市場では、米国の早期利下げ期待の後退を受けた米国金利の上昇 (債券価格は下落) が金利上昇圧力となりましたが、国ごとの個別要因などから、金利は国によってまちまちな動きとなりました。新興国為替相場は、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、多くの新興国通貨が対円で上昇しました。

- ・アジア地域  
インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。
- ・欧州地域  
ポーランド・ズロチは、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。
- ・中東・アフリカ地域  
南アフリカ・ランドは、南アフリカにおいて総選挙後に連立政権樹立への期待が高まったことや、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。
- ・中南米地域  
ブラジル・レアルは、ブラジルの財政悪化懸念が高まったことなどを受けて、対円で下落 (円高) しました。メキシコ・ペソは、メキシコの総選挙の結果を受けて一時的に円高円安となる局面もありましたが、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどが円安要因となり、対円で上昇しました。

◆ 前作成期末における「今後の運用方針」

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

◆ ポートフォリオについて

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域へおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

◆ ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当作成期の当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率は、「当作成期中の基準価額と市況等の推移」をご参照ください。

《今後の運用方針》

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。



■ 1万口当りの費用の明細

項目	当期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (保管費用)	2 (2)
(その他)	(0)
合計	2

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況

公社債

(2024年1月23日から2024年7月22日まで)

			買付額	売付額
外	メキシコ	特殊債券	千メキシコ・ペソ 4,427	千メキシコ・ペソ ( 1,389 2,600)
	インド	特殊債券	千インド・ルピー 12,163	千インド・ルピー ( 3,962 5,000)
	インドネシア	特殊債券	千インドネシア・ルピア 8,946,000	千インドネシア・ルピア ( 11,643,105 -)
	ブラジル	特殊債券	千ブラジル・リアル 788	千ブラジル・リアル ( 346 1,390)
国	南アフリカ	特殊債券	千南アフリカ・ランド -	千南アフリカ・ランド ( 4,544 -)
	ポーランド	特殊債券	千ポーランド・ズロチ -	千ポーランド・ズロチ ( 586 -)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

公社債

(2024年1月23日から2024年7月22日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘柄	金額	銘柄	金額
	千円		千円
EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT (国際機関) 5.6% 2025/1/30	85,881	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関) 7.25% 2024/3/15	106,071
EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT (国際機関) 5.08% 2025/12/15	39,026	EUROPEAN INVESTMENT BANK (国際機関) 8.5% 2024/9/17	37,460
INTL. FIN. CORP. (国際機関) 6.75% 2024/8/27	23,892	ASIAN DEVELOPMENT BANK (国際機関) 5.5% 2026/2/3	22,940
INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関) 4.8% 2025/2/5	22,259	INTL. FIN. CORP. (国際機関) 6.75% 2024/8/27	10,517
		INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関) 4.65% 2024/10/16	7,539
		INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関) 6.65% 2024/7/30	6,358
		INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関) 5.2% 2024/2/15	6,166
		EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT (国際機関) 5.6% 2025/1/30	5,761

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

# ダイワ短期国際機関債マザーファンド

## ■組入資産明細表

### (1) 外国（外貨建）公社債（通貨別）

区 分	作 成 期	当 期		末		組 入 比 率	うち B B 格 以下組入比率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
		額 面 金 額	評 価 額	外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
メキシコ	千メキシコ・ペソ 11,150	千メキシコ・ペソ 10,590	千円 92,675	% 14.0	% -	% -	% -	% -	% 14.0	
インド	千インド・ルピー 43,500	千インド・ルピー 43,348	81,929	12.4	-	-	-	-	12.4	
インドネシア	千インドネシア・ルピア 8,400,000	千インドネシア・ルピア 8,354,556	81,874	12.4	-	-	-	-	12.4	
ブラジル	千ブラジル・レアル 2,050	千ブラジル・レアル 2,052	57,734	8.7	-	-	-	-	8.7	
南アフリカ	千南アフリカ・ランド 18,250	千南アフリカ・ランド 18,004	155,556	23.6	-	-	-	-	23.6	
ポーランド	千ポーランド・ズロチ 4,010	千ポーランド・ズロチ 3,988	159,662	24.2	-	-	-	-	24.2	
合 計	-	-	629,433	95.3	-	-	-	-	95.3	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

### (2) 外国（外貨建）公社債（銘柄別）

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
メキシコ	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT	特 殊 債 券 特 殊 債 券	6.6500 5.0800	千メキシコ・ペソ 3,800 7,350	千メキシコ・ペソ 3,808	千円 33,328	2024/07/30
					6,781	59,347	2025/12/15
通貨小計	銘 柄 数 金 額	2銘柄		11,150	10,590	92,675	
インド	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT INTL. FIN. CORP.	特 殊 債 券 特 殊 債 券	4.8000 6.3000	千インド・ルピー 12,500 31,000	千インド・ルピー 12,412	23,459	2025/02/05
					30,936	58,469	2024/11/25
通貨小計	銘 柄 数 金 額	2銘柄		43,500	43,348	81,929	
インドネシア	EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT	特 殊 債 券	5.6000	千インドネシア・ルピア 8,400,000	千インドネシア・ルピア 8,354,556	81,874	2025/01/30
通貨小計	銘 柄 数 金 額	1銘柄		8,400,000	8,354,556	81,874	
ブラジル	INTL. FIN. CORP.	特 殊 債 券	6.7500	千ブラジル・レアル 2,050	千ブラジル・レアル 2,052	57,734	2024/08/27
通貨小計	銘 柄 数 金 額	1銘柄		2,050	2,052	57,734	
南アフリカ	EUROPEAN INVESTMENT BANK AFRICAN DEVELOPMENT BK.	特 殊 債 券 特 殊 債 券	8.5000 5.1000	千南アフリカ・ランド 10,450 7,800	千南アフリカ・ランド 10,445	90,248	2024/09/17
					7,558	65,308	2025/11/17
通貨小計	銘 柄 数 金 額	2銘柄		18,250	18,004	155,556	
ポーランド	ASIAN DEVELOPMENT BANK	特 殊 債 券	5.5000	千ポーランド・ズロチ 4,010	千ポーランド・ズロチ 3,988	159,662	2026/02/03
通貨小計	銘 柄 数 金 額	1銘柄		4,010	3,988	159,662	
合 計	銘 柄 数 金 額	9銘柄				629,433	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2024年7月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	629,433	95.0
コール・ローン等、その他	33,247	5.0
投資信託財産総額	662,680	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、7月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=157.54円、1メキシコ・ペソ=8.75円、1インド・ルピー=1.89円、100インドネシア・ルピア=0.98円、1ブラジル・レアル=28.13円、1南アフリカ・ランド=8.64円、1ポーランド・ズロチ=40.027円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産（659,826千円）の投資信託財産総額（662,680千円）に対する比率は、99.6%です。

■損益の状況

当期 自2024年1月23日 至2024年7月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	21,086,365円
受取利息	21,086,374
支払利息	△ 9
(B) 有価証券売買損益	39,824,675
売買益	45,754,955
売買損	△ 5,930,280
(C) その他費用	△ 104,508
(D) 当期損益金(A + B + C)	60,806,532
(E) 前期繰越損益金	197,976,630
(F) 解約差損益金	△ 42,508,510
(G) 追加信託差損益金	892,974
(H) 合計(D + E + F + G)	217,167,626
次期繰越損益金(H)	217,167,626

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年7月22日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	662,680,210円
コール・ローン等	12,641,062
公社債(評価額)	629,433,079
未収利息	19,220,415
前払費用	1,385,654
(B) 負債	2,326,941
未払解約金	2,326,941
(C) 純資産総額(A - B)	660,353,269
元本	443,185,643
次期繰越損益金	217,167,626
(D) 受益権総口数	443,185,643口
1万口当り基準価額(C / D)	14,900円

\* 期首における元本額は541,960,605円、当作成期間中における追加設定元本額は1,936,473円、同解約元本額は100,711,435円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：  
 ダイワ短期国際機関債ファンド(年2回決算型) - 成長の絆(年2回) - 8,260,867円  
 ダイワ短期国際機関債ファンド(毎月分配型) - 成長の絆 - 434,924,776円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は14,900円です。